



発電お好み焼き横丁^{はつでん この や よこちよう}

「お父ちゃんお父ちゃん。」

せつかくの休みなんやから、

お昼ごはんどつかに連れてつてえな。」

「おお、もうそんな時間か。」

せやな、新しくできた

発電^{はつでん}お好み焼き横丁^{この や よこちよう}ってとこに、

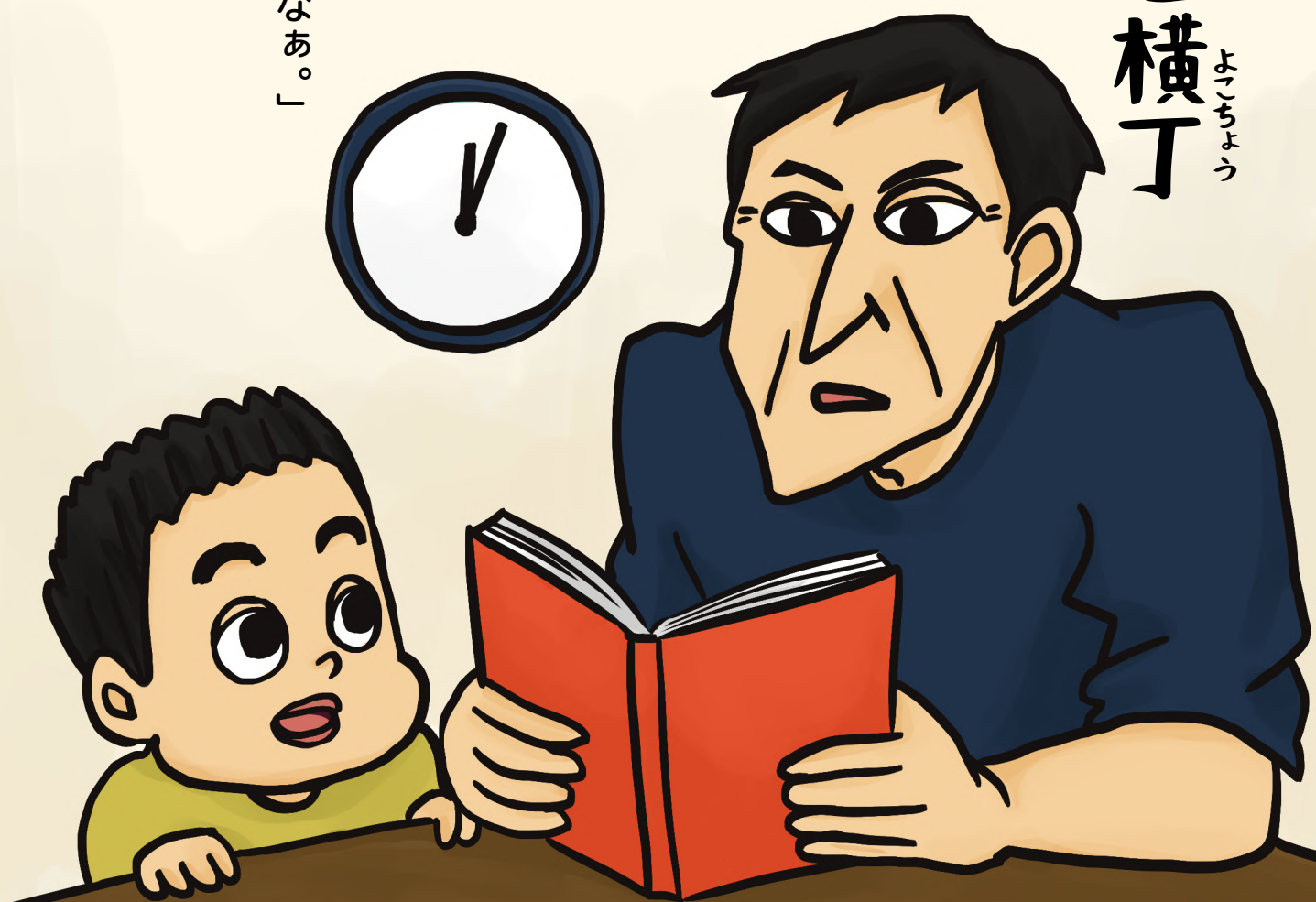
いっぺん行ってみたかったんや。

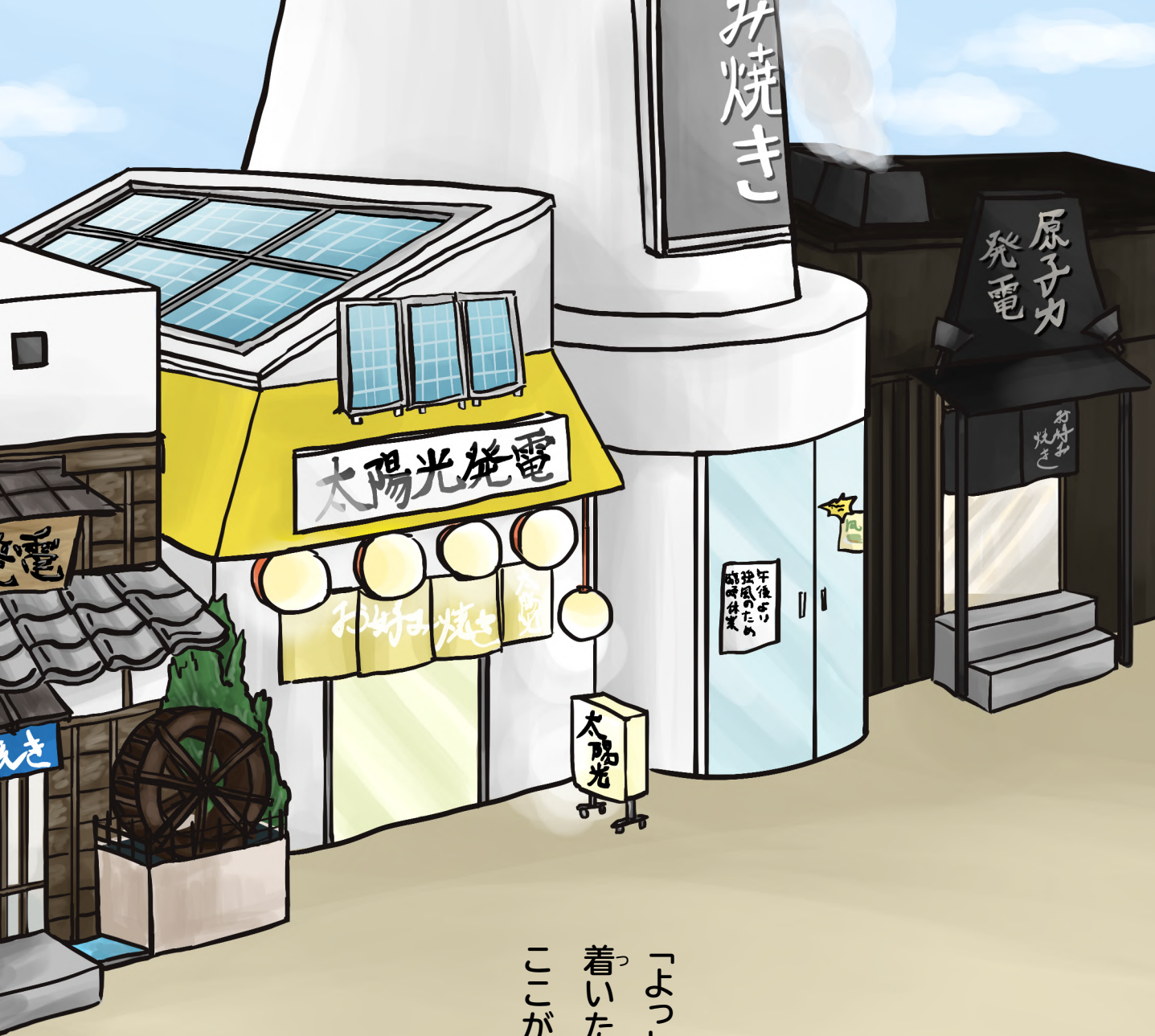
ほなひとつそこへ行ってみよか。」

「やったあ。」

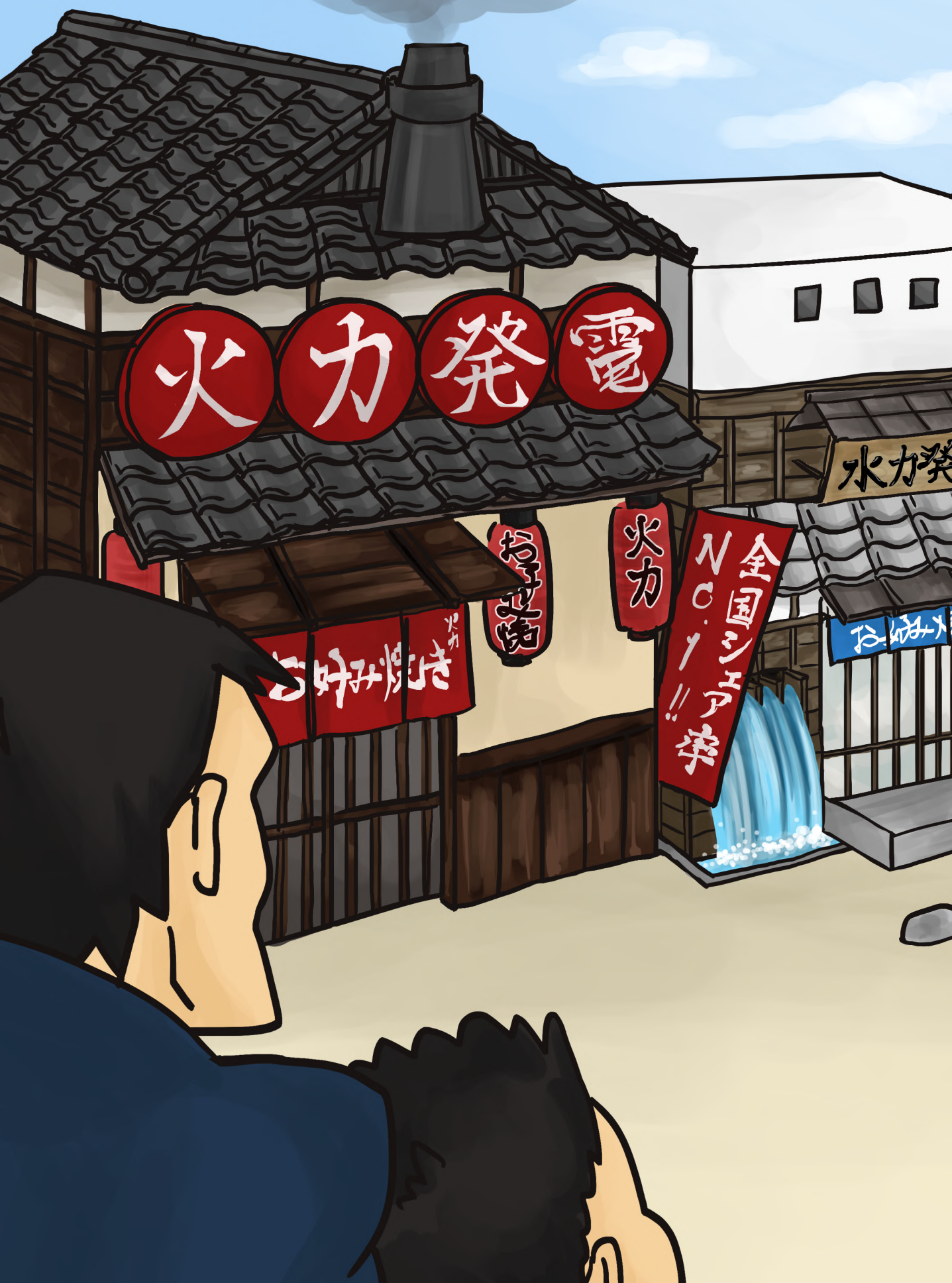
給料^{きりう}日の後のお父ちゃんはやさしいなあ。」

「やうしい」といいなー！」





「よっしゃ
着いた着いた
ここが発電お好み焼き横丁か。」



「まずはお好み焼き^{この}

『火力発電^{かりよくはつでん}』から。

すんまへん。

うわっ、暑っ！

えらい熱気^{ねつき}やな。」

「へい、らっしやい。」

「すんまへん、

初めて来たもんで、

教えてもらいたいんですけど、

名物^{めいぶつ}『火力^{かりよく}焼き^や』って何^{なん}でっか？」

「ふっふっふ。自慢^{じまん}やおまへんけど、

うちの火力^{かりよく}焼きは日本のお好み^{この}焼きの

80パーセント以上を焼^やいてます。

さらに24時間、365日^{えいぎよう}営業。

十人分でも百人分でも自由^{じゆう}自在^{ざい}に焼^やけます。」

「へえ、安定してお客に

お好み^{この}焼^やきを焼^やけるってことでんな。

ほな「火力^{かりよく}焼き」2人前、

お願いします。」

「へい！一枚1500円で、

合計3000円ちようだいします。」



「ちよつ、

ちよつと待つてえな。

一枚1500円で、

えらい高^たいおまへんか。」

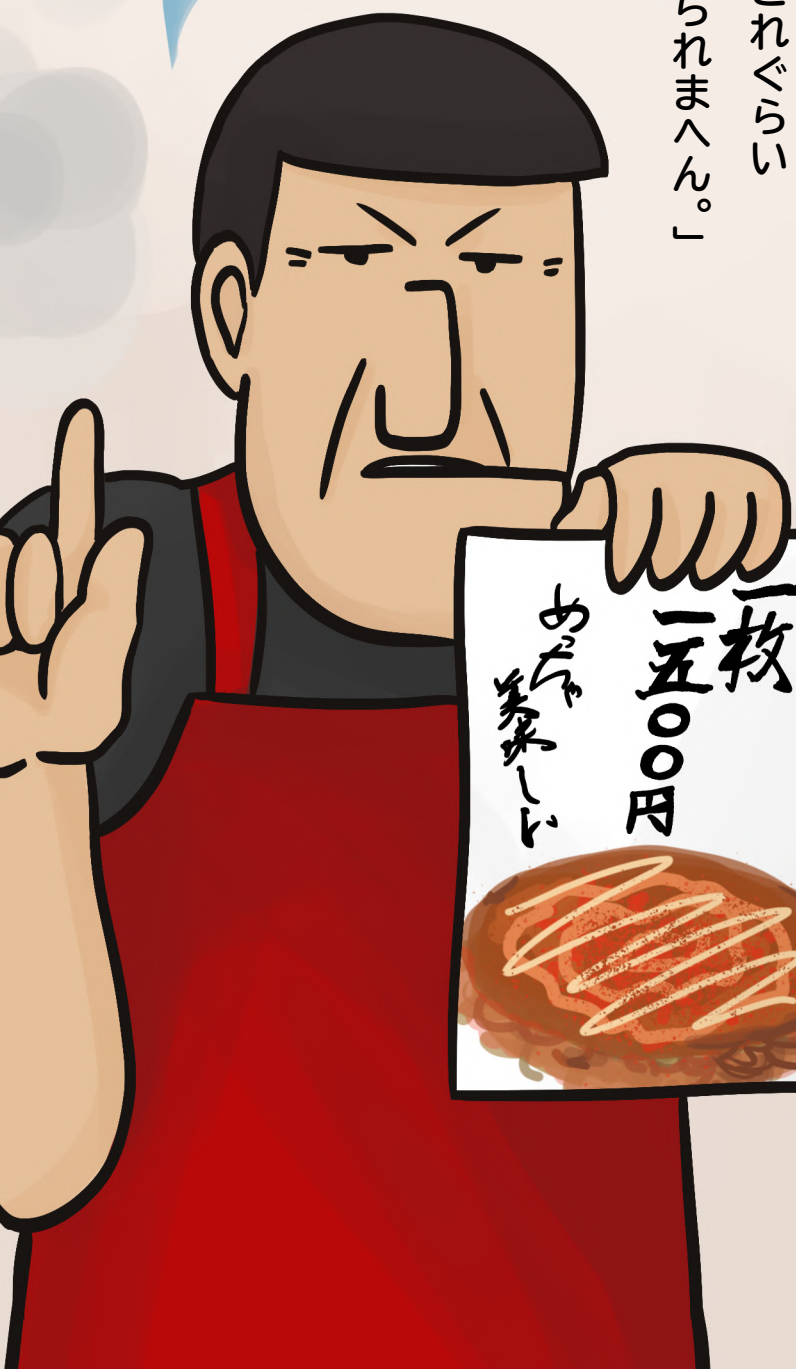
「まあ、うちは石油、石炭、

天然ガス^{てんねん}を海外^{かいがい}から買って

タンカー^{はこ}で運んできてますからな。

燃料代^{ねんりようだい}としてこれぐらい

もらわなやつてられまへん。」



「せやかて一枚1500円は
ちよつと高すぎ…」

ゴホゴホ、この店、なんか
空気が悪いんちゃいまつか？」

「まあ、うちは燃料ねんりょうを燃もやしてますからな。

そら空気も悪くなりますわ。

シオーツー おんたんか
CO₂が地球温暖化に影えい響きやうあるらしいけど、

うちも商売しょうばいですからな。」

「お父ちゃん、

おなかへったからここにしよや。」

「いやいや待て待て。

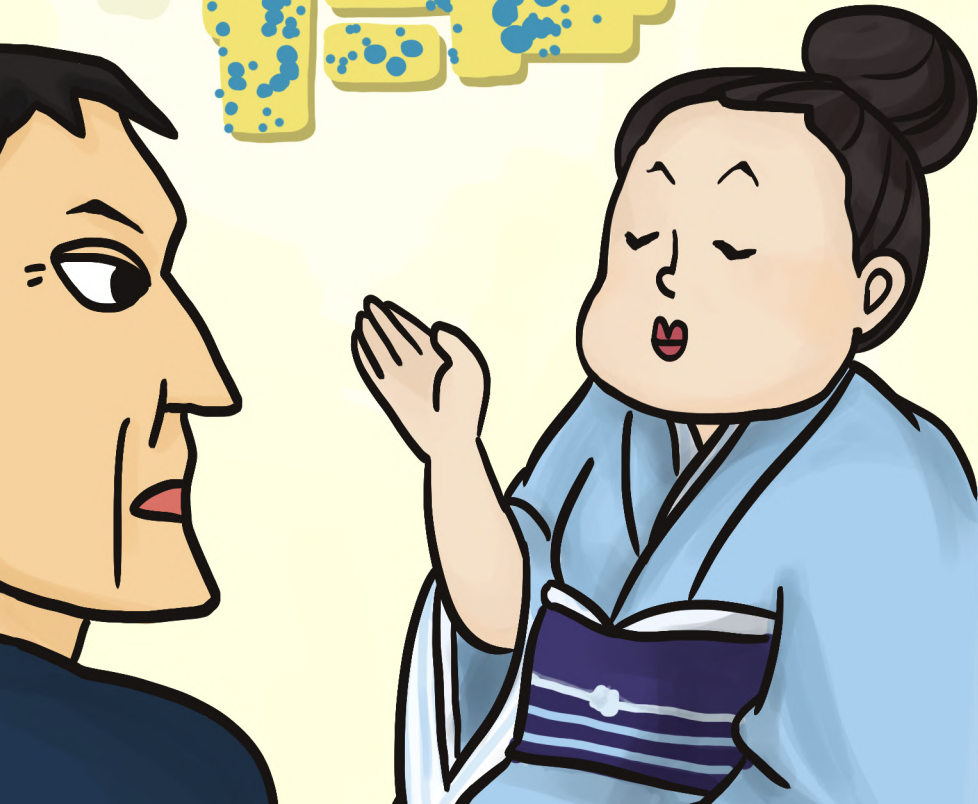
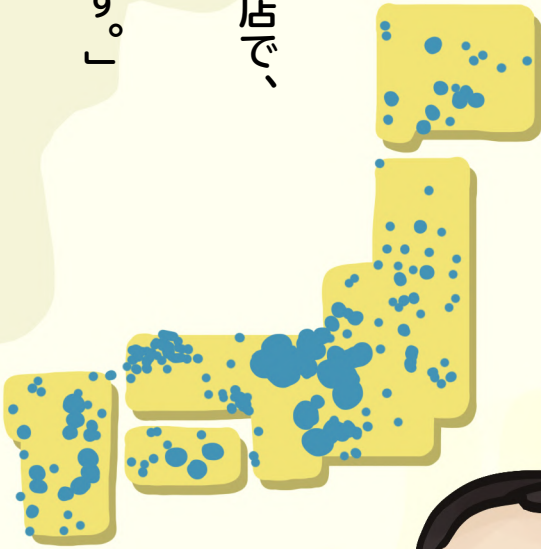
ちよつと他の店回らせてもらいます。」



「火力^{かりょく}焼きはお金がかつて、
空気が悪くなるとは知らなんだな。
よっしゃ、次はここや。お好み^{この}焼^やき
『水力^{すいりき}発電^{はつでん}』。すんまへん。」
「どうもお越^こしやす。」



「あの、ちよつと
教えてもらいたいですけど、
この『水力^{すいりき}焼^やき』というのは
どんなお好み^{この}焼^やきでんの？」
「うちの水力^{すいりき}焼^やきは、全国1200店で、
店舗^{てんぽ}数^{すう}だけでみたら
日本一のお好み^{この}焼^やき屋^やでございます。」
「へえ。大したもんでんなあ。」



「あの、ちょっとお伺^{うかが}いしますけども、

一枚1500円とかしまへんか？」

「うちの水力^{すいりょくや}焼きの燃料^{ねんりよう}はなんせ

水だけですよって、材料^{ざいりようひ}費^ひの20円だけです。」

「え？20円でお好み^{この}焼き^や焼^やけまんの？

そらよろしいなあ。

でも、ひよつとして空気を悪くしまへんか？」

「燃料^{ねんりよう}は水だけですよって、

空気は一切悪うなりまへん。」

「そらええがな。ここにしとこかな。」

おつ、ちようどお隣^{となり}のお客^{きやく}さんの

水力^{すいりょくや}焼きが焼^やけたみたいやな。

どれどれ。」



「なんやこの

ちつこい

お好み焼きは。」

「このお店は小さいから

焼けるお好み焼きも

小さいんです。」

「ほな、もつと大きい店やったら

大きいお好み焼き焼けまんの？」

「お店がダムぐらい

大きかったら、

大きなお好み焼きも

焼けますけどねえ。」



「ダム！そんな大きい店が日本には
1200店もあるんでっか。」

そら全国のお好み焼きの

ほとんどを焼いてるんちゃいまっか？」

「・・・まあ7パーセントぐらいです。」

全部が大きい店ではないですけど。」

「そうでっか！1200店すべてが

大きい店ではないんでっか。」

それでも1200店も出しとって

たったの7パーセントかいな。」

「そうなんです。」

しかも日本中、ダムが作れるところには

みんな作りましたんでね。

大きなものは、

おそらくこれ以上増やせまへん。」

「お父ちゃんお父ちゃん、

おなかへったからここにしとこや。」

「いやいや待て待て。ちよつと他の店も回らせてもらいます。」



「まさか水力^{すいりき}焼きが

あんなに小さいとは思わなかったなあ。

次はここやな。お好み^{おのみの}焼き『太陽光^{たいようこう}発電』。」

「すんまへん・・・うわっ、まぶしい。」

「へい、いらつしやい。」

「あ、大将^{たいしょう}の頭見て言うたんちやいますよ。

店の明^あかりの話ね。」

「わははは、結構^{けつこう}ですよ。お客さん初めてでんな。

どうぞおかけください。」

「すんまへん。この『太陽光^{たいようこう}焼き』というのは、

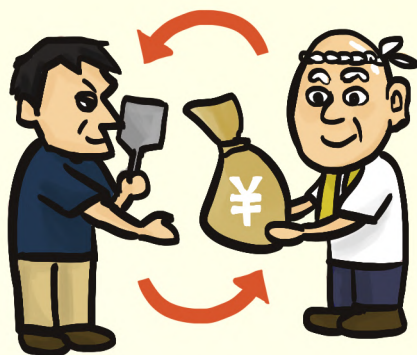
どんなもんでつか？」

「自慢^{じまん}やおまへんが、最近かなり流行^{はや}つてきましてね。」

「へえ。そんなに人気なんでつか。値段^{ねだん}が安いからでつか？」



ちっさ!



「まあ、太陽出たら

焼けますからね、

材料費の10円だけです。

でも人気の秘密は、

お客さんが太陽光焼きを

焼いてくれたら、

うちがそのお好み焼きを

買い取るってところですね。」

「ええつ。プロのお好み焼き屋が、

素人のお好み焼きを

買い取ってくれるんでっか。」

「そうです。この十年ほどで

全国のお好み焼きの

6パーセントを焼くまでに

伸びてきましたんや。

ほら、あの家の屋根の上でも

太陽光焼き焼いてまっしゃろ。」



「そら知らなんだなあ。

よっしゃ、太陽たいようの光だけなら

空気も悪ならんし、

お金までもらえるんやから、

その太陽光たいようこう焼き、2枚お願いします。」

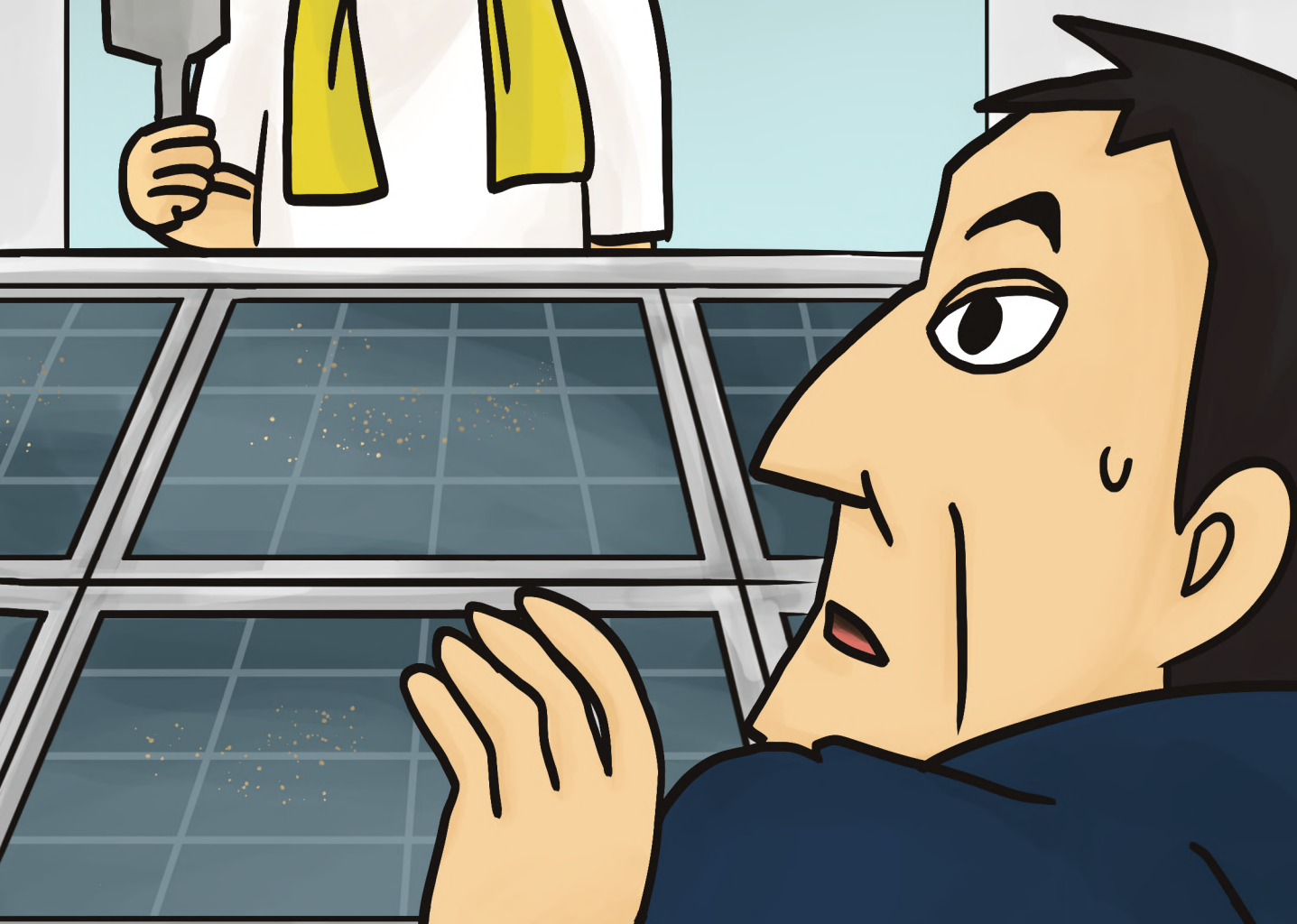
「はいはい、

かしこまりまし。。。」

ガクッ

「あれっ大将たいしょう? 大将たいしょう、大丈夫でつか?

ちよつとちよつと。」



「あつ。ああ、すんまへん。

ちよつと雲で太陽がかくれてしもたでしよ。

そうなると動けなくなるんですわ。」

「ええつ。今から一番お客が多い、

お昼ご飯の時間でつせ。

お客様相手の商売ぢやいまんのか？」

「いえいえ、うちは

お日様相手の商売です。」

「ほな雲の出ているうちは諦めて、

また夜に來させてもらいますわ。」

「いえいえ、夜は全店閉店しとります。」

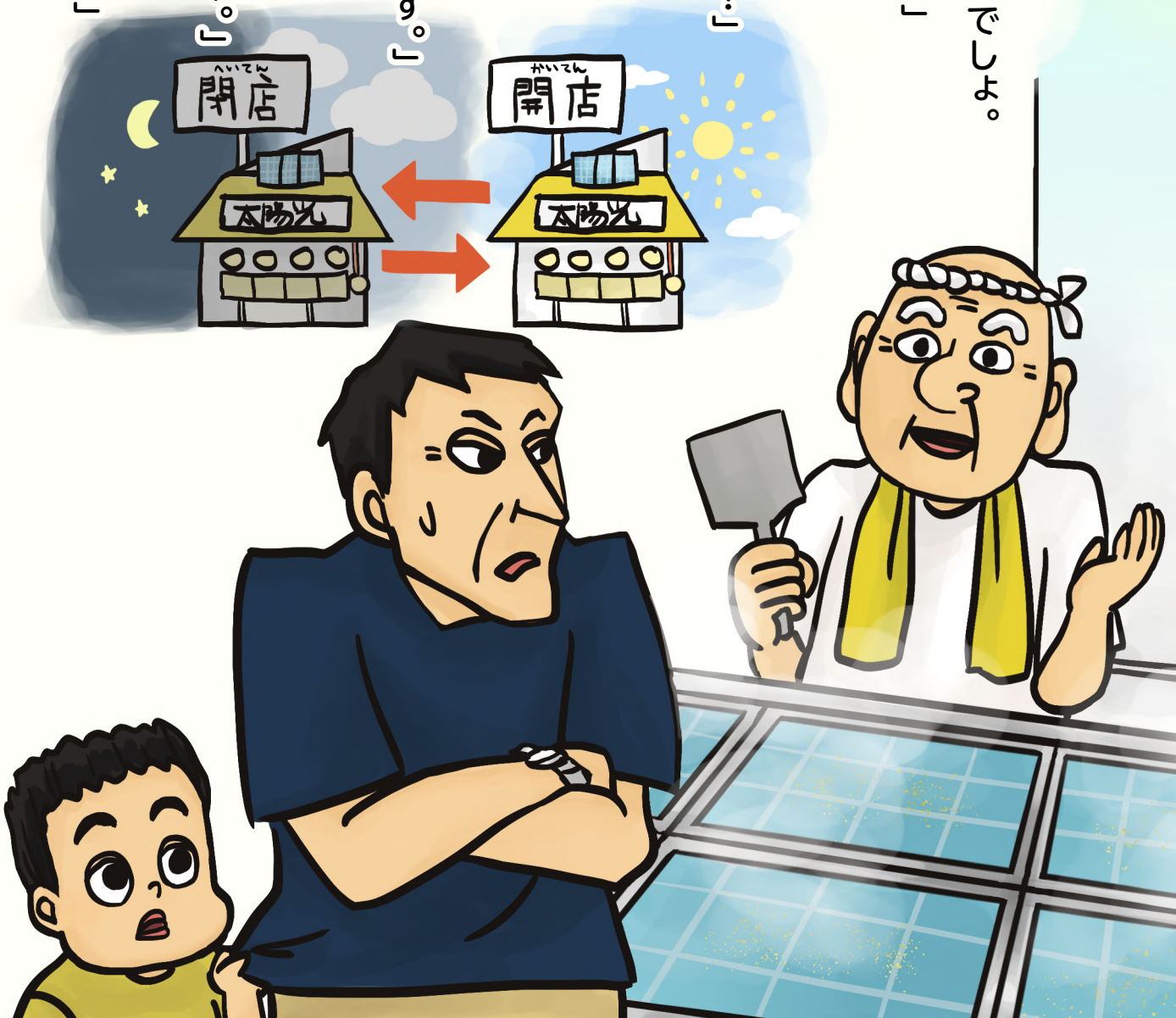
「なんやそれ！」

「お父ちゃんお父ちゃん、

おなかへったからもうここにしよや。」

「ちよつと待て待て。」

ほな他の店回らせてもらいますわ。」



「太陽光^{たいようこう}焼きは、えらい気分屋^{きぶんや}のお好み焼き屋^{このお好み焼き屋}やな。」

次は隣^{となり}か。

おお、ぐつつい高い塔^{とつ}やな、

上にプロペラ

ついとるがな。」



少し小さいけど
10円



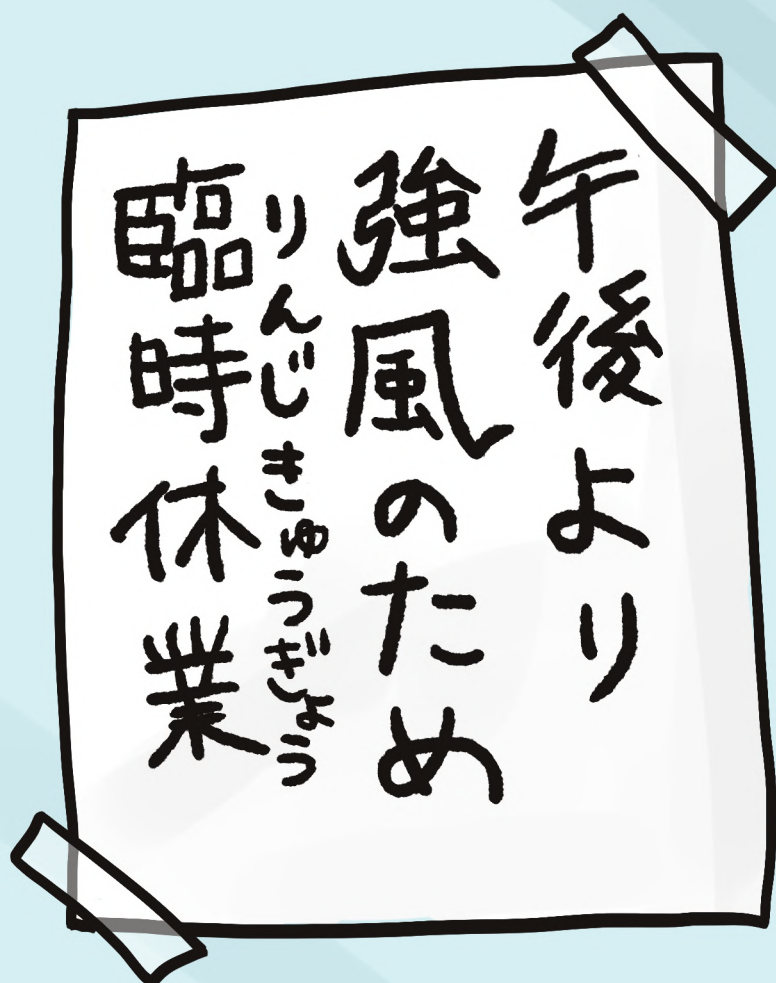
「なになに、お好み焼き^{このお好み焼き}【風力発電^{ふうりょくはつでん}】・・・

風の力でお好み焼き^{このお好み焼き}を焼くみたいやな。

おつ、こども10円か。空気も悪くせんみたいやな。

こらええんちゃうか。」

「・・・なんや、張り紙^{はみ}はつとるがな。」



「なんやこれ。」

風が弱いならわかるけど強くてもアカンのかいな。
頼^{たよ}んない店やな。ほな次行こか。」

「隣は、お好み焼き『原子力発電』か。すんまへん。」

「いらつしやいませ。」

「ちよつとこの『原子力焼き』言うのん教えてもらえまつか。」

「もちろんです。ただ、手を止めることができませんので、仕事しながらになります。」

「うちは一枚350円でやらせてもらってます。」

「おお、350円は安い。」

「安いだけでなく、うちは横丁のお店の中で、

一番大きなお好み焼きを焼いております。」

「へえ、そらすごい。でも、ひよつとして、

空気を悪くしたり、

天気によって閉店したりしまへんか？」

「いえいえ、

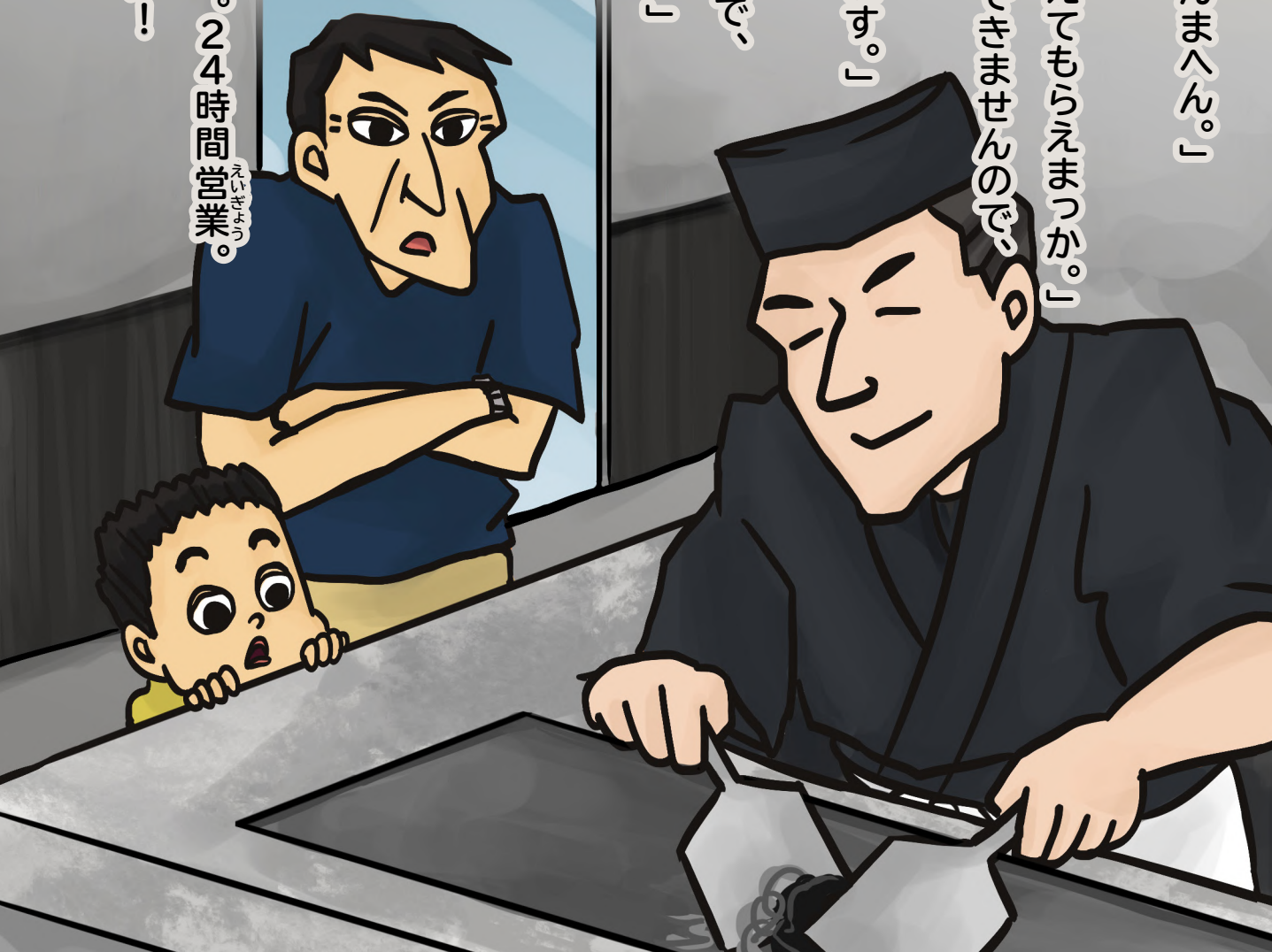
うちは空気も悪くしませんし、

24時間365日営業です。」

「ええつ。空気も悪ならへん。安い。大きい。24時間営業。」

おたくのどこ、夢のお好み焼き屋やないか！

ほなさつそく2人前もらお。。。。」



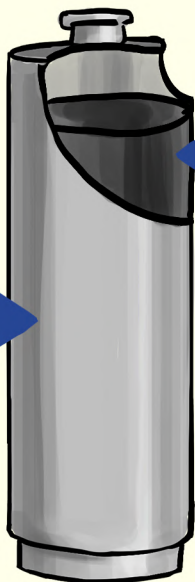
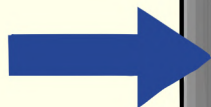
「・・・と、ちょっと
その横に積んでる
大量のビンは何でっか？」

「ああ、これですか。
これは創業53年間、
溜まりに溜まったゴミです。」

「ゴミ？
53年間いっぺんもゴミ捨ててへんのかいな。
はよ捨ててこなアカンがな。」

「いやあ。捨てたいのはやまやまですけど、
捨てる場所が見つかってないんです。」
「どづいづこっちゃ。ただのゴミちゃうんか。」

オーバー
パック



ガラス
固化体

「実はこのゴミ、

高レベル放射性廃棄物こうりべい ほうしやせいはいきぶつといって、

とても危険なゴミなんです。

もれ出したら、

ここら一帯立ち入り禁止になります。

だから、捨てる場所がまだないんです。

しかも、事故があつてからは、

閉店する店も増えてきて、

今では全国のお好み焼きの

6パーセントほどしか焼いてません……。」

「そら大変でんな。」

ゴミ問題や安全性は大切やからなあ。

ほな、全店閉店したら

この問題は解決するんかいな。」

「いえいえ。店が閉まっていても、

53年分のゴミがなくなるわけでは

ありませんからねえ。」

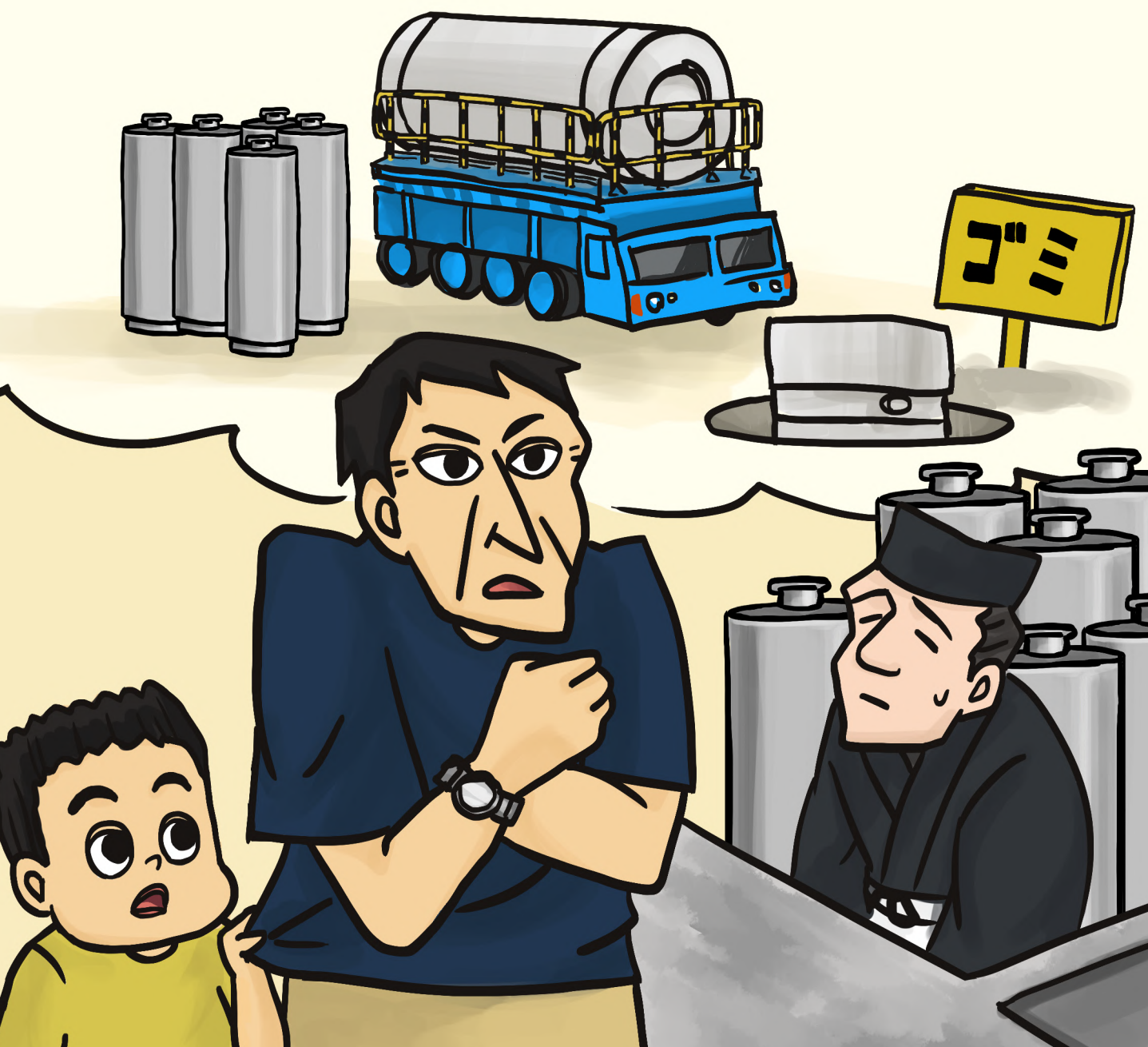


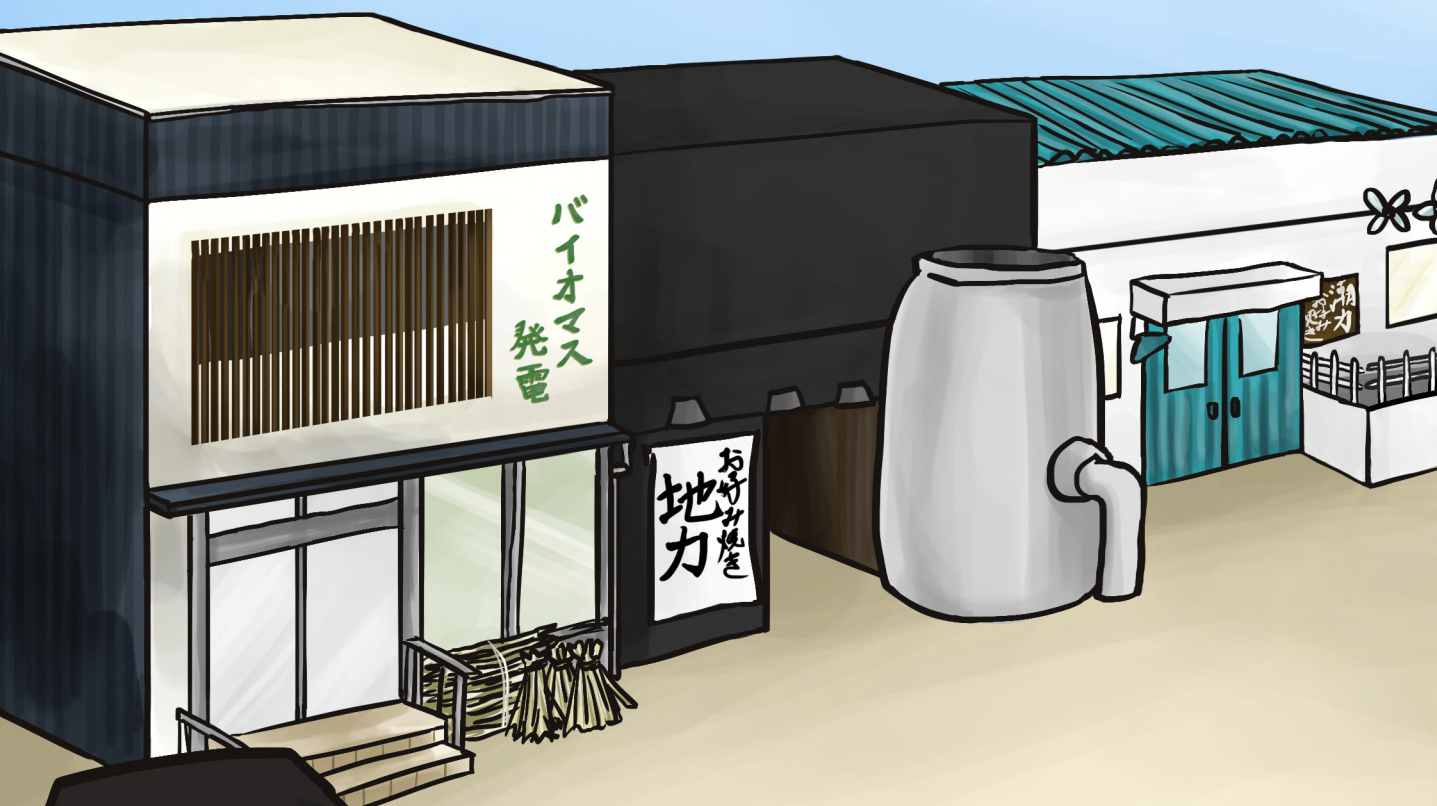
「そうそうやな。」

このゴミを埋めるところを、
みんなで考えていかな
アカンねんなあ。」

「お父ちゃんお父ちゃん！
もうおなかぺこぺこやから、
ここで食べようや！」

「いやいや待て待て。
ちよっと他の店
回らせてもらいます。」





「まだまだ店はあるなあ。

【バイオマス焼^やき】

【地熱^{じねつ}焼^やき】

それぞれいいところも

悪いところもあるんやろな。」

「お父ちゃん、

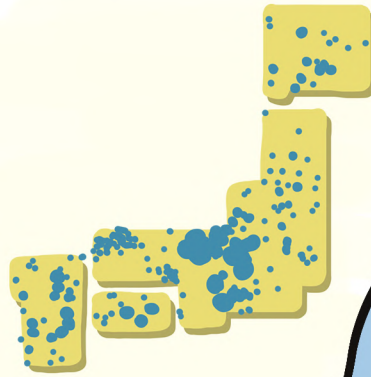
結局^{けつぎ}どのお店にするんよ。」

「そっやなあ。」

【火力焼き^{かりよくや}】はいつでも
好きなだけ焼けるけど、
値段^{ねだん}が高い上にCO₂^{シーオーツー}出して、
空気が悪くなるしな。



【水力焼き^{すいりよくや}】は
燃料代^{ねんりようだい}タダで
空気も悪せんけど、
ダムみたいな
大きい店^{ひじょう}が必要で、
これ以上は作る場所が
ないみたいやし。



【太陽光焼き^{たいようこうや}】も
【風力焼き^{ふうりよくや}】も、
環境^{かんきょう}に優しいけど、
天気^{てんき}に左右されて
肝心^{かんじん}な時に動かへんし。





「げんしりよくや原子力焼き」は空気も悪せんし、
大きくて安いし、
24時間焼けるねんけど、
ゴミや安全のことで
まだまだ問題もんだいがあるしなあ。」

「どれも、いいとこと
悪いところがあるねんなあ。」
「お父ちゃん、
もうがまんできへん。
何でもいいから。
お父ちゃんが適当ていとうに決めてえな。」



「じーじー待て待て。

これから生きていくくんは

おまえら子どもやないか！

何でもいいなんて

言うたらアカンで！

ちゃんと自分で考えて、

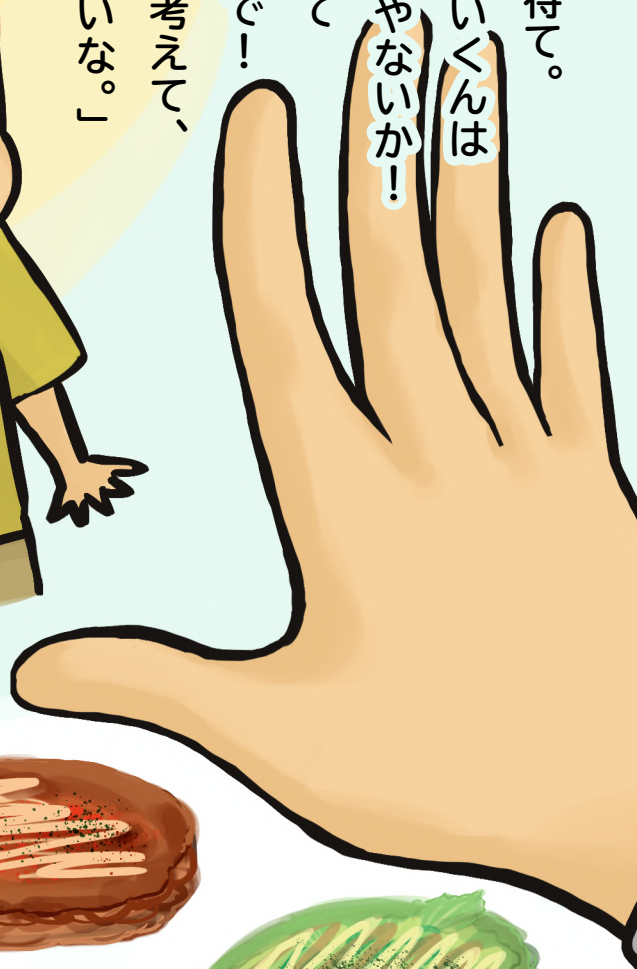
自分で選^{えら}ばんかいな。」



「ほんまやな……。

自分のことやもんな。

ほなちゃんと考えるわ。」

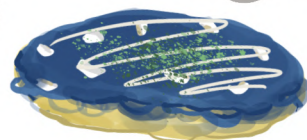
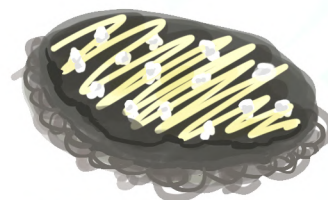
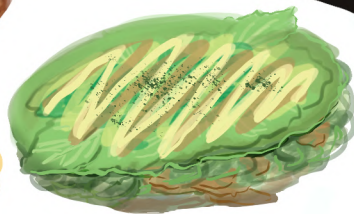
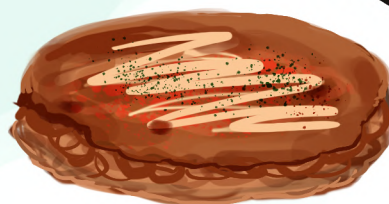


「ちなみに

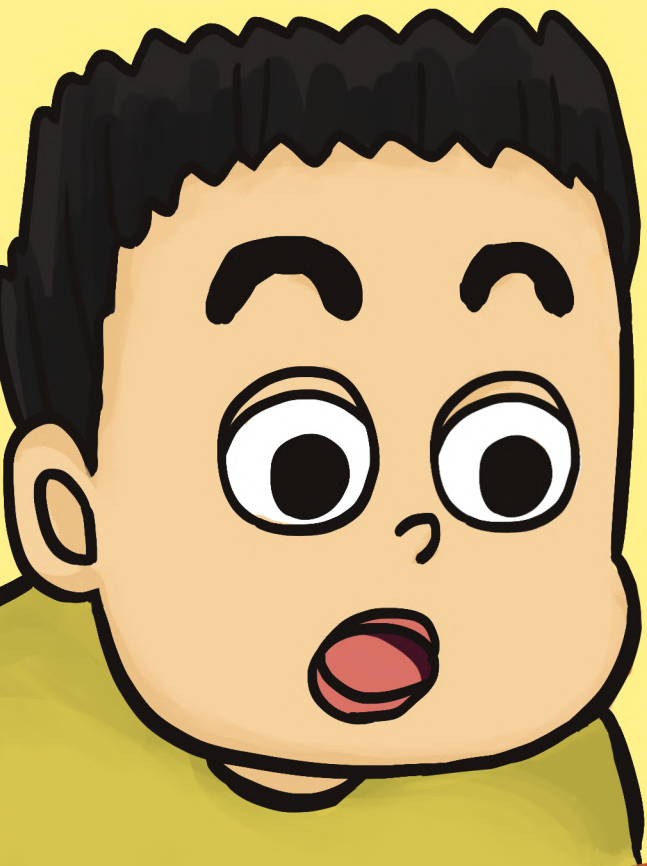
お父ちゃんは

どれを選^{えら}ぶの？」

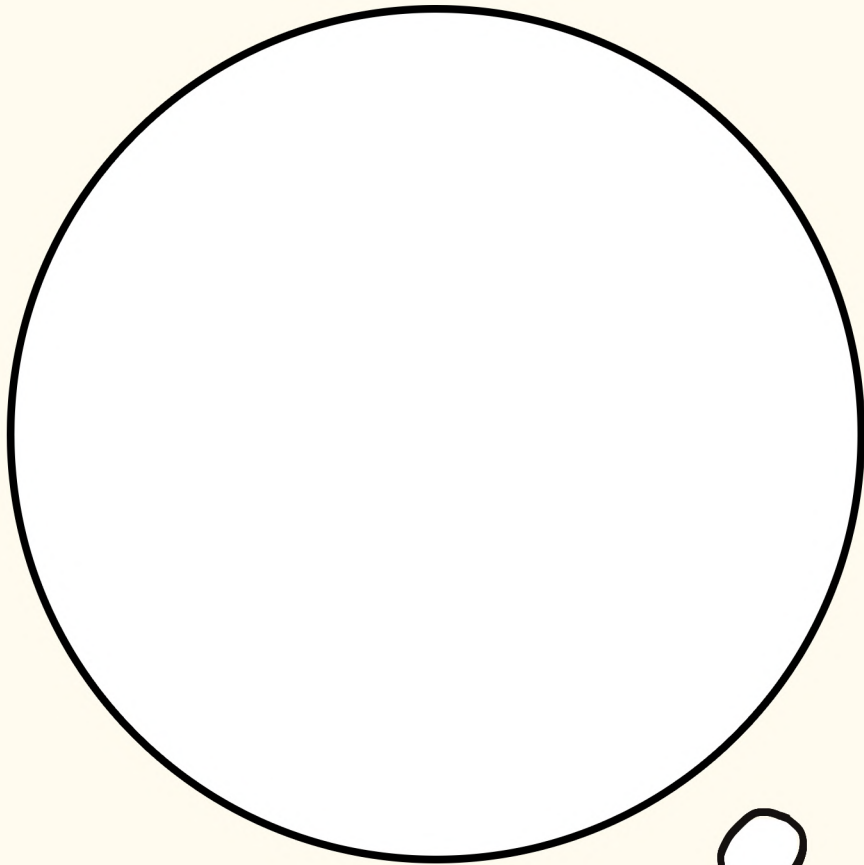
「そうやなあ、お父ちゃんは……。」



「エネルギーのミックスモダン焼やきにするわ。」



あなたの^{この}お好み^や焼きを
考えてみてね



理由は？

あとがき

このお話は、日本のエネルギーの現状をわかりやすく理解してもらえるように創作した「発電お好み焼き横丁」という落語を絵本化したものです。読む人に身近に感じてもらえるように、電気をお好み焼きに、発電所をお好み焼き屋さんに例えました。お好み焼きの大きさやパーセントなどは、経済産業省資源エネルギー庁のデータを基につくりましたが、わかりやすくするためにおおまかな数で示してあるところもあります。ご理解下さい。

この絵本のお父ちゃんは、最後にエネルギーのミックスモダン焼きを選びました。エネルギーミックスとは再生可能エネルギーや火力、水力、原子力など、多様なエネルギー源を組み合わせることです。しかし、この絵本はどの発電がよいかを教えるためのものではありません。読まれた人がエネルギーの視点から生活を見直したり、将来を考えるきっかけになればと願っております。

最後に、絵本を作成するにあたって、エネルギー教育や電力関係の方にたくさんのご助言をいただきました。また、デザイナーの方には度重なる変更にもお付き合い頂き、絵本にぴったりの絵を描いていただきました。心より感謝申し上げます。

(八尾市立曙川小学校 主幹教諭 山野 元気)

発電お好み焼き横丁

2020年3月発行

発行

経済産業省資源エネルギー庁

制作

近畿エネルギー教育地域会議

問い合わせ先

株式会社朝日広告社 エネルギー教育推進事務局

〒108-0073

東京都港区三田4-1-4 城南ビルディング4F

TEL 03-5439-6636

FAX 03-5730-3156

文

山野 元気(八尾市立曙川小学校 主幹教諭)

絵

株式会社シンウィザード

※絵本に掲載されたイラストは著作権法により保護されているため、教育活動以外の目的での利用・転載・無断複写は固くお断りいたします。

